

往 来

「若い頃は
家業の粗い織
物に魅力を感じ
なかった」と
話すのは、

蚊帳生地

の織布技術を基にした織物業、笹田織物(奈良県田原本町)の笹田昌孝社長(写真)。ユニフォーム用途の長繊維使いの織布業で修行したこともあり、「高密度の生地こそが良いい生地と考えていた」と振り返る。同社に入社して数年



は、高密度の織布技法を模索した時期

もあつたが、コストとの折り合いや使用用途との相性など、粗い織物だからこそ成立する世界への理解を深めていった。「その価値に気付くのに時間がかかってしまった」が、自社オリジナルのストールを開発、販売するなど用途開拓が進む。引き続き、住生活用品など、新ジャンルの開拓に取り組む。



綿工連綿's倶楽部委員長に就いた

笹田 昌孝 氏

委員長に就いた。

綿's倶楽部への参加は2002年、家業の笹田織物(奈良県田原本町)に入社

した頃にさかのぼる。当時は、前身の綿工連青年部だった。ただし、奈良県織物工業組合の青年部がなくな

っていた時期で、「勉強をさせてほしい」と許可を得て、個人での参加だった。

「同じ織布と言っても、用途が違えば技術体系も全く違うものになる。それを知り、情報交換して問題を解決できたり、新技術の開

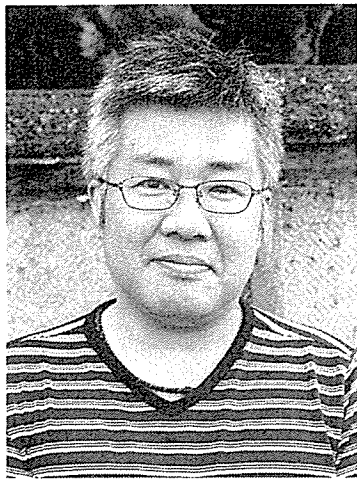
を感じて、奈良産地の中からも参加する仲間を増やしていき、ついには奈良県織物工組の青年部も復活させた。

綿工連青年部が2010年に綿's倶楽部に形を変えてからも、積極的に参加を

「こんだ」と言う。

副委員長を複数回経験し、6月に委員長への就任が決まった。「自分が育てもらったように、今の若い世代に、『参加してよかった』と感じてもらえる運営をめざす」。

日本綿スフ織物工業連合会(綿工連)の有志組織である綿工連綿's倶楽部の委



ささだ・まさたか 1976年生まれ。奈良県田原本町出身。趣味は「お酒とおいしいもの」。家族は妻と一男一女。

「参加してよかった」の集まりに

発につながったりするのが楽しかった」と振り返る。

他産地の同業者とのつながりができる中で、多くの学びを得た。「今思えば、臆面もなくいろいろ聞いていたが、先輩も気持ちよく答えてくれた」。居心地の良さ

続けた。その間にも国内の繊維産地の厳しさは増し、当初は親睦会のような雰囲気もあった集まりは、研修や勉強会など、より実践的な学びの場に変わっていった。「理想的な集まりになり、どんどん活動にのめり

と苦笑するが、今年は、「産地見学会などが難しいようであれば、『各企業の内部で、足腰を強くするためにできる具体策』を学び、次のステップに備える」と言う。

(酒)